

2021年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年9月10日

上場会社名 ベルグアース株式会社 上場取引所 東
 コード番号 1383 URL <http://www.bergearth.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 山口 一彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼CFO財務経理本部管掌 (氏名) 富永 真哉 (TEL) 0895-20-8231
 四半期報告書提出予定日 2021年9月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年10月期第3四半期の連結業績(2020年11月1日~2021年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年10月期第3四半期	3,572	4.2	△142	—	△144	—	32	—
2020年10月期第3四半期	3,428	6.1	△214	—	△219	—	△146	—

(注) 包括利益 2021年10月期第3四半期 28百万円(—%) 2020年10月期第3四半期 △115百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年10月期第3四半期	25.74	25.27
2020年10月期第3四半期	△115.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年10月期第3四半期	5,145	1,153	18.0
2020年10月期	4,662	1,138	19.5

(参考) 自己資本 2021年10月期第3四半期 925百万円 2020年10月期 907百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年10月期	—	—	—	10.00	10.00
2021年10月期	—	—	—	—	—
2021年10月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年10月期の連結業績予想(2020年11月1日~2021年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,600	7.8	△100	—	△105	—	90	—	70.9

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) - 、除外 一社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年10月期3Q	1,269,900株	2020年10月期	1,269,900株
2021年10月期3Q	247株	2020年10月期	247株
2021年10月期3Q	1,269,653株	2020年10月期3Q	1,269,653株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症が未だ収束に向かうことはなく、8月から緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の対象地域が拡大され、期間延長を決定するなど、引き続き経済活動に大きな影響を及ぼしております。ワクチン接種は順次行われているものの、デルタ株等の新たな変異株の発生により今後も予断を許さない状況が続くことが予想されます。

一方、農業を取り巻く環境は、農業を支える農業従事者の高齢化や後継者不足が進み、離農が増加することにより耕作放棄地が拡大し、農業生産量が減少傾向にあります。加えて、近年は、異常気象や大規模な自然災害の発生などにより、農作物の不作や野菜価格の高騰、また、気候の変動による適期作業のタイミングが難しくなってくるなど様々な問題が懸念されております。

このような状況の中、当社グループは野菜苗・苗関連事業を中心に受注拡大に向けた営業強化、生産体制や生産工程の見直しを行うことにより製造コストの圧縮を図り、売上の拡大と収益力の強化に努めてまいりました。更に、コロナ禍において生産者の皆様を直接訪問させていただくことが難しい状況の中、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを活用した圃場案内や商品紹介も駆使して、営業活動を行ってまいりました。

生産体制においては、本社農場で閉鎖型育苗施設の新設や育苗施設の改築が行われ、2021年2月より稼働を開始いたしました。日本国内の気候変動が従来以上に複雑に顕在化し、農業生産の活動に対する影響が懸念されている状況において、閉鎖型育苗施設の本格稼働により、年間を通じて安定したウリ科の苗供給ができる生産体制が可能となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,572,643千円と前年同四半期と比べ144,143千円(4.2%)の増収となりました。損益面につきましては、営業損失142,910千円(前年同四半期は営業損失214,322千円)、経常損失144,945千円(前年同四半期は経常損失219,068千円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、本社農場の設備投資に伴い交付決定をしておりました「産地生産基盤パワーアップ事業費補助金」に基づく補助金収入252,487千円の計上と圧縮積立金の計上及び税効果会計の適用等による法人税等調整額69,988千円を計上したことにより、32,679千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失146,814千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

(野菜苗・苗関連事業)

当事業部門におきましては、11～1月の閑散期の受注拡大に向けた営業推進活動により九州、東北、北海道地区の生産者や大規模菜園向けのトマト苗の売上が増加、3～4月の甲信越地区の需要増加によるキュウリ苗の売上が増加いたしました。また、5～7月は同業他社との価格競争や生産規模が減少する中でのシェアの獲得ができず特にトマト苗の受注が減少いたしました。上記のほか、他社との差別化を図りキュウリのワクチン接種苗の販売強化やホームセンター向けの花苗の企画提案により東北・関東向けのキュウリ苗や一般向けの花苗の売上が増加いたしました。

損益面につきましては、本社農場、ベルグ福島の生産設備新設及び改築により生産に使用する消耗品や減価償却費が増加した一方で、技術指導に当たっている熟練社員を含め、ピーク時に接ぎ木作業に専念させることで生産効率が大きく改善するなど、各農場において生産体制の見直しが行われたことにより労務費の増加が抑えられました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高3,390,093千円と前年同四半期と比べ71,353千円(2.2%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)241,322千円と前年同四半期と比べ84,439千円(53.8%)の増益となりました。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

品目分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
トマト苗	1,122,739	93.7
キュウリ苗	1,011,535	109.6
ナス苗	298,340	103.7
スイカ苗	344,417	103.8
メロン苗	249,515	102.3
ピーマン類苗 (注1)	164,294	103.1
その他 (注2)	199,249	113.8
合 計	3,390,093	102.2

(注1) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シシトウ・トウガラシをまとめて表示しております。

(注2) 玉ねぎ苗、葉菜苗、花苗等を含んでおります。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

規格分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
ポット苗(7.5cm～15cm) (注1, 2)	1,658,941	104.3
当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ、高接ぎハイレッグ苗、ウィルスガード苗、ツイン苗) (注2)	1,044,551	99.9
セル苗(406穴～72穴) (注1, 2)	644,921	99.7
その他	41,678	115.6
合 計	3,390,093	102.2

(注1) ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗(当社においては、主に断根接ぎ木苗にて育苗した苗)であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

(注2) ツイン苗は、ポット苗、セル苗の規格分類へ区分しておりましたが、当第3四半期連結累計期間より当社オリジナル製品へ区分を変更しております。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

納品地域分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
北海道・東北	797,118	111.6
関東	1,136,181	101.1
甲信越	336,385	109.1
中部・北陸	201,941	97.1
近畿・中国	416,419	98.1
四国	178,891	98.4
九州・沖縄	323,156	90.2
合 計	3,390,093	102.2

(注) 静岡は「甲信越」に含めて表示しております。

(農業・園芸用タネ資材販売事業)

当事業部門におきましては、家庭園芸向けに品種提案を行ってきたことによるPB品種種子の販売強化、生産者向けに土壌病害における有効な機能をもつ肥料などの商品提案を含めた幅広い営業活動を行ってまいりました。新型コロナウイルス感染症の再拡大により営業活動やお客様との商談も制限されておりますが、今後も新規顧客への販売推進を行いながら、研究開発部門における商品の効果的な利用方法の発掘やメーカーとの商品開発などを行い商品ラインナップの充実を図り売上拡大に向けて取り組んでまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高66,923千円(前年同四半期比2.7%減)となりました。セグメント利益(営業利益)2,027千円(前年同四半期はセグメント損失2,775千円)となりました。

(海外事業)

当事業部門におきましては、前連結会計年度から新型コロナウイルス感染症の影響により、中国国内での生産及び営業活動が制限されております。この様な厳しい環境に対応する為、鉢花の生産販売事業を中断し、また現地生産者との競争が激しくなってきたことから債権回収を徹底する為、苗及び青果物の販売を抑制しております。

今後は、アフターコロナを見据えながら、トマト苗の生産委託先の開拓、連携企業と事業拡大に向けて中国国内を中心とした農業資材(肥料・種子)の市場開拓を行い、韓国では肥料販売の拡大や日本国内向けの種子や苗の輸出に注力してまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高17,838千円(前年同四半期比56.5%減)、セグメント損失(営業損失)26,048千円(前年同四半期はセグメント損失49,903千円)となりました。

(小売事業)

当事業部門におきましては、前連結会計年度より小売事業を行うファンガーデン株式会社を連結範囲に含めました。小売事業は、総合園芸店を2店舗運営しており、店舗及びインターネット販売を通じて家庭園芸を行う一般消費者からプロの生産者向けに、当社が生産した各種苗を始め、地域の生産者に出品していただき、様々な植物や青果物、農業関連資材等を販売しております。また、店舗外営業拡大の為、植物や青果物の予約購買や定期購買にも積極的に取り組んでおり、新規パートナーとの取引が売上の拡大に繋がっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高97,786千円、セグメント損失(営業損失)は8,152千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産の合計は、前連結会計年度末と比べ483,113千円(10.4%)増加の5,145,468千円となりました。これは、仕掛品の増加278,102千円、原材料及び貯蔵品の増加77,486千円、建物及び構築物の増加391,896千円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末と比べ467,615千円(13.3%)増加の3,991,808千円となりました。これは、支払手形及び買掛金の増加64,709千円、長期借入金の増加503,720千円、資産除去債務の増加15,288千円等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産の合計は、前連結会計年度末と比べ15,498千円(1.4%)増加の1,153,660千円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は概ね予定通りに推移しております。そのため、連結業績予想については2020年12月14日の開示時点から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	728,771	789,526
受取手形及び売掛金	982,177	782,263
電子記録債権	202,772	145,994
商品及び製品	23,575	22,196
仕掛品	62,984	341,086
原材料及び貯蔵品	147,830	225,317
その他	101,050	131,437
貸倒引当金	△4,352	△4,577
流動資産合計	2,244,809	2,433,245
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,261,339	1,653,236
機械及び装置（純額）	213,363	202,701
土地	538,448	575,915
その他（純額）	204,555	70,690
有形固定資産合計	2,217,705	2,502,544
無形固定資産	39,649	47,551
投資その他の資産	160,190	162,127
固定資産合計	2,417,546	2,712,223
資産合計	4,662,355	5,145,468

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	498,026	562,736
電子記録債務	365,377	251,615
短期借入金	927,930	850,000
1年内返済予定の長期借入金	287,275	344,437
未払金	276,578	240,684
未払法人税等	6,373	8,104
賞与引当金	55,544	26,303
その他	112,777	118,001
流動負債合計	2,529,882	2,401,882
固定負債		
長期借入金	789,277	1,292,998
資産除去債務	104,380	119,668
その他	100,653	177,259
固定負債合計	994,310	1,589,926
負債合計	3,524,193	3,991,808
純資産の部		
株主資本		
資本金	331,494	331,494
資本剰余金	245,674	245,674
利益剰余金	331,309	351,292
自己株式	△398	△398
株主資本合計	908,080	928,063
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	287	△339
為替換算調整勘定	△410	△1,872
その他の包括利益累計額合計	△122	△2,212
新株予約権	50	50
非支配株主持分	230,154	227,759
純資産合計	1,138,162	1,153,660
負債純資産合計	4,662,355	5,145,468

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年11月1日 至2021年7月31日)
売上高	3,428,499	3,572,643
売上原価	2,635,986	2,680,597
売上総利益	792,512	892,045
販売費及び一般管理費	1,006,834	1,034,956
営業損失(△)	△214,322	△142,910
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	143	686
受取手数料	10,444	1,795
補助金収入	801	2,654
その他	1,976	2,302
営業外収益合計	13,368	7,442
営業外費用		
支払利息	4,153	6,044
持分法による投資損失	12,988	3,391
その他	973	41
営業外費用合計	18,115	9,476
経常損失(△)	△219,068	△144,945
特別利益		
補助金収入	78,850	252,487
その他	766	220
特別利益合計	79,616	252,707
特別損失		
固定資産除却損	832	89
特別損失合計	832	89
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△140,285	107,672
法人税、住民税及び事業税	7,331	7,440
法人税等調整額	△31,954	69,988
法人税等合計	△24,622	77,428
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△115,662	30,244
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	31,151	△2,435
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△146,814	32,679

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△115,662	30,244
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	320	△627
為替換算調整勘定	△84	△1,462
その他の包括利益合計	235	△2,089
四半期包括利益	△115,427	28,154
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△146,579	30,589
非支配株主に係る四半期包括利益	31,151	△2,435

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	野菜苗・苗 関連事業	農業・園芸用 タネ資材 販売事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,318,740	68,746	41,012	3,428,499	—	3,428,499
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	5,711	5,711	△5,711	—
計	3,318,740	68,746	46,723	3,434,210	△5,711	3,428,499
セグメント利益又は 損失(△)	156,883	△2,775	△49,903	104,204	△318,526	△214,322

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△318,526千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	野菜苗・苗 関連事業	農業・園芸用 タネ資材 販売事業	海外事業	小売事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,390,093	66,923	17,838	97,786	3,572,643	—	3,572,643
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,151	1,054	6,416	—	10,621	△10,621	—
計	3,393,244	67,978	24,254	97,786	3,583,264	△10,621	3,572,643
セグメント利益又は 損失(△)	241,322	2,027	△26,048	△8,152	209,148	△352,059	△142,910

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△352,059千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、ファンガーデン株式会社が連結子会社となったことに伴い、事業セグメント区分に「小売事業」を新たに追加しております。